

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【教育】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 28 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 地域に根ざす国立大学として、グローバル化社会における地域創生を担う人材の中核的育成拠点となり、高い国際通用性を有する教育課程のもと、地域一体型教育を推進し、ミッションの再定義で掲げた各分野の人材を含め、優れた高度専門職業人を育成する。</p>	<p>1-① グローバル化社会において求められる高度専門職業人等の人材の育成が学位プログラムとして担保されるよう、体系的で国際通用性を有する教育課程や個々の科目の目標等を平成 30 年度までに整備し、周知・運用する。その一環として、一体的に策定したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーについて、整合性などを継続的に見直し、必要に応じて適切な改正を行う。さらに、教育の国際通用性を検証するため、全学的な教学マネジメントのもと、教育成果の検証を含めた内部質保証、国際アドバイザーによる外部評価等を実施する。大学院課程では、第 3 期中期目標期間中に、教育学研究科および工学研究科において、機能強化のための改組と質の高い学位プログラム構築を行う。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文科省提出年度計画に記載された「体系的で国際通用性を有する教育課程の要件を策定し、内部質保証・外部評価などを組み込んだ PDCA サイクルの体制の整備」がなされていない。 同様に、「策定された三つのポリシーに基づき科目毎の目標、科目配置、科目間の関連などの妥当性の検証」がなされたのか、明らかでない。 カリキュラム・授業評価委員会は設置されたが、議論が十分に進んでいるとは言えない状況にある。 今後、「国際通用性」に関する議論を推進する必要がある。 今年度に策定することとなっている幾つかの要件等が策定されていない。また、カリキュラム・授業評価委員会も十分に機能しているとは言えない。
	<p>1-①-1 カリキュラムマネジメント（2-①-2）の一環として、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに求められる要件を整理したうえで、策定済みの各ポリシーの内容及び一体性を検討、必要な改定を実施する。その後も、継続的に見直す。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-1-1 (1-①-1-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間評価でも指摘されている通り、次年度以降早急に大学院の 3 ポリシーを策定する必要がある。
	<p>1-①-2 カリキュラムマネジメント（2-①-2）の一環として、教育課程が学位プログラムとしての体系性・国際通用性を有しているか検証し、必要な改善を（各部署の改組等にもあわせて）行い、周知・運用する。その後も継続的に見直す。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-2-1 (1-①-2-1-1~7)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学として、「学位プログラムとして備えるべき体系性や国際通用性」の要件が定められておらず、H29 年度に、早急に策定願いたい。 カリキュラム・授業評価委員会は設置されたが、「国際通用性」の要件策定等の議論をどこで行い、どのように推進していくのか、依然として明確になっていないのではないか。 3 ポリシーが策定されたことを受けて、カリキュラム・マップ／ツリーの見直し等について確認する必要はないか？ 各学部の取組みにおいては、進捗の度合いに差はみられるものの、教育課程の改善への取組みが見て取れるが、「教育課程が「学位プログラムとして備えるべき体系性や国際通用性」の要件が策定されていない。しかしながら、各学部によって達成すべき能力は違っており、その能力を修得するための教育プログラムも学部によって特徴がある。また、国際通用性についても、学部によって求めるものが違っており、その中で全学（共通）の体系性・国際通用性の要件を定めることが良いのか疑問である。要件は各学部で定め、その要件を満たしているかをカリキュラム・授業評価委員会で検証すれば良いのではないかと。

【年度末】

	<p>1-①-3 教育の国際通用性を検証するため、2-①の全学的な教学マネジメントの下、教育成果の検証を含めた内部質保証、海外大学ベンチマーキング（毎年）、国際アドバイザーによる外部評価（3年毎）等を実施する。</p> <p><副学長（教育・学生）> <副学長（国際）></p>	<p>1-①-3-1 1-①-3-2 (1-①-3-1-1～6)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育の国際通用性」の要件が定められておらず、H29 に、早急に策定願いたい。 ・年度計画では、「内部質保証、外部評価、海外大学ベンチマーキング等を組み込んだ「教育の国際通用性」の確保・向上に係る PDCA の体制を整備したうえで、運用計画を作成」としているが、PDCA 体制が必ず十分整備されていない。 ・海外ベンチマーキングが実施され、さらに国際的視野からの教育評価実施に向けた準備がなされている。 ・海外大学ベンチマーキングは実施されるが、1-①-2 と関連した問題状況は、中間評価の時点と比較してあまり変化していないのではないか。 ・「教育の国際通用性」の要件が定められていない。しかしながら、1-①-2 と同様に、全学の要件を定める必要があるのか。各学部において教育プログラムに合わせた要件を定め、国際的な視点での外部評価や、ベンチマーキング等を計画に実施し、定めた要件が妥当かの検証し改善を行う。その PDCA の体制が整備され、きちんと回っているかをカリキュラム・授業評価委員会で検証すれば良いのではないか。
	<p>1-①-4 教育学研究科および工学研究科において、機能強化のための改組を行い、それにより質の高い学位プログラムを実現する。</p> <p><教育学研究科> <工学研究科></p>	<p>1-①-4-1 (1-①-4-1-1～2)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただし、今後「質の高い学位プログラム」の内容を、指標を示して説明することが必要になると思われる。
	<p>1-①-5 グローバル化社会において求められる高度専門職業人等の育成状況を確認するため、養成人材像およびディプロマ・ポリシーで謳われた能力等（地元企業等の求める職業能力を含む）の涵養状況を検証する。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-5-1 (1-①-5-1-1～6)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画で示した「養成人材像およびディプロマ・ポリシーで謳われた能力等（地元企業等の求める職業能力を含む）の涵養状況の検証方法の策定」がなされていない。 ・キャリア支援室によって実施された、本学卒業生を採用した企業等へのアンケート調査が実施されているが、その結果は共有されているのか。 ・能力等の涵養状況を検証するためのアンケート等を実施しつつある部局もあるが、各部局における議論や検証の進捗状況を全学的に集約・管理することが必要ではないか。 ・全学として能力等の涵養状況の検証方法が策定されていない。しかしながら、DP に謳われた能力等については各学部の特色があり、その涵養状況の検証方法についても違いがあると思われる。検証方法の策定は各学部で行えば良いのではないか？ どうしても全学共通の要件が必要であれば、各学部で定めた要件から、共通の部分で策定するという方法もある。

【年度末】

1-②	<p>高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるため、教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入する。特に、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第3期中期目標期間中に6割以上にする。また、教員養成においては、プロジェクト型授業を発展させることなどを通して、学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力を育成する。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文科省提出年度計画に「教育方法が教育課程や科目の性質・目標に照らして十分な学修効果をもたらしているかの検証方法を策定する」をあげているが、全学として具体的な検証方法が策定されていない。 中間評価時と比較して、全学FDの実施、アクティブ・ラーニングの定義等、一定の進捗が見られるが、「能力等の修得状況の指標、検証方法」に関する取り組みをさらに全学的に進める必要がある。 ALが教育効果が高いことの検証方法の検討を早急に進め、その方法による検証と分析による、更なるALの改善を期待したい。
	<p>1-②-1 教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入する。特に、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第3期中期目標期間中に6割以上にする。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-②-1-1 (1-②-1-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況は概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度計画では「効果的な授業方法・モデル、および学習効果の検証方法の提案を行うとしているが、具体的な提案をH29に行っていただきたい。さらに、ALの導入状況を経時的にフォローする必要があり、この点も対応いただきたい。 ALの定義は策定され、普及状況を把握することも目的としたシラバスシステムの改修も行われているが、ALの学習効果が高いことの検証方法について検討が遅れ気味である。 全学FD、アクティブ・ラーニングの定義等については実施されたが、今後、「効果の検証」に基づく「より高い学習効果を期待できる方策」の導入についての取り組みが必要になると思われる。
	<p>1-②-2 教員養成においては、プロジェクト型授業を発展させることなどを通して、学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力を育成する。</p> <p><教育学部></p>	<p>1-②-2-1 1-②-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> インターンシップの実施状況を随時把握する体制が整備されているが、実際の把握はなされているのか。
	<p>1-②-3 高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などの修得状況を検証する。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>	<p>1-②-3-1 (1-②-3-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部局では関連する様々な取り組みがなされているが、全学として、能力等の修得状況の指標や検証方法は具体的に策定されたのか明らかでない 修得状況の調査・分析は実際になされたのか、明らかでない。 全学としての知識・技能および課題探求能力などについて、修得状況の指標および検証方法が策定されていない。しかしながら、この指標等の策定についても、各学部で策定すれば良いのではないか。また、各学部よって差はみられるが、修得状況の分析が進んでいないように見受けられる。 各部局における能力等の修得状況の指標や検証方法に関する議論は進みつつあるが、進捗状況の全学的な確認をどこかで行う必要はないか。

【年度末】

1-③	<p>学生の主体的な学びの確立に向け、修学環境を維持・向上させるとともに、学習管理システムやシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動を一層促し、第 3 期中期目標期間中に、学生の授業外学修時間を、現状の 1.5 倍以上に向上させる。また、学士課程では米国型 Grade Point Average (GPA) 制度（平成 29 年度までに導入）とともに、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自主的学習活動を促す履修指導について、工学部以外の取組状況の確認が必要である。
	<p>1-③-1 図書館、ICT 環境、自主的学習環境、学生の交流拠点などのハード面の修学環境について、利用状況や満足度を検証しつつ、維持・向上させる。</p> <p><高等教育推進センター（学生支援部門）></p>	<p>1-③-1-1 (1-③-1-1-1~7)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「第 3 期修学環境支援方針を策定した」としているが、方針等の全学への周知は必要ないのか
	<p>1-③-2 学修管理システム（LMS）やシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動を一層促し、第 3 期中期目標期間中に、学生の授業外学修時間を、現状の 1.5 倍以上に向上させる。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-③-2-1 (1-③-2-1-1~6)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業時間外学習時間は前回に比べ 1 時間増加したとのことであるが、1.5 倍増加に向けてその増加状況は妥当なものか明らかでない。 工学部で実施している、「アクティブ・ラーニング通信」は他学部でも有益と思われるので、配信はできないか。 授業外学習時間の調査結果を受け、各学部における分析や検証が行われているのか？ 自主的学習活動を促す履修指導について、工学部以外の取組状況の確認が必要である。
	<p>1-③-3 学士課程では米国型 Grade Point Average (GPA) 制度（平成 29 年度までに導入）とともに、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-③-3-1 (1-③-3-1-1~6)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 米国型 Grade Point Average (GPA) 制度を平成 29 年度までに導入することとしているが、準備状況は十分か。 「多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン」を平成 30 年度までに導入することとしているが、その策定作業は順調か。 米国型 GPA の導入を平成 30 年度に延期するとしても、具体的な議論を早急に開始する必要があると思われる。 アセスメントポリシーについての全学的な議論も進める必要がある。 GPA 制度は導入されたが、その活用状況も、今後、カリキュラム・授業評価委員会で検証する必要がある。
1-④	<p>教員養成に係る学部、教職大学院と附属学園の三位一体改革事業のもと構築した体制を有効に機能させ、附属学園の教員研修学校化促進、学校拠点方式を基軸とする管理職養成教育の実施、他大学と連携した教職大学院の共同大学院化や国内外のネットワークの拡大など、教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す。</p> <p><教育学研究科></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p>

【年度末】

	1-④-1 教員養成に係る三位一体改革事業のもと構築した体制を有効に機能させ、附属学園の教員研修学校化促進、学校拠点方式を基軸とする管理職養成教育の実施 ＜教職大学院＞	1-④-1-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・文科省提出年度計画に「附属学園での教員研修学校機能(教職大学院への入学、教員免許状の取得等)について整備」としているが、具体的な整備状況はどうか。
	1-④-2 他大学と連携した教職大学院の共同大学院化 ＜教職大学院＞	1-④-2-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント)
	1-④-3 国内外のネットワークの拡大 ＜教職大学院＞	1-④-3-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・ <u>H28 の実績として、各数値指標が拡大したのか、具体的な数値を示してほしい。</u> ・次年度以降、「各数値指標の拡大の推進」状況について記述することが望ましい。
	1-④-4 教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す。 ＜教職大学院＞	1-④-4-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・H29 年度中に協定の締結が見込まれるのか。
1-⑤	子どものこころの発達研究センターと教職大学院および教育学部は、子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築し、本学で蓄積中の先端的脳科学・精神医学および先駆的教師教育研究の知見を活かし、発達障害についての教員養成カリキュラムの改善や、附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備、いじめ対策等生徒指導推進事業の推進、インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示を行う。 ＜教育学研究科＞		(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・子どものこころの発達研究センター職員が、実際に講義や学生指導を行っているのか <u>その実績を示してほしい。</u>
	1-⑤-1 子どものこころの発達研究センターと教職大学院および教育学部は、子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築 ＜教職大学院＞	1-⑤-1-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・ <u>具体的な参加状況（人数、回数）を示してほしい。</u>
	1-⑤-2 先端的脳科学・精神医学および先駆的教師教育研究の知見を活かし、発達障害についての教員養成カリキュラムの改善 ＜教職大学院＞	1-⑤-2-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・「子どものこころの発達センターのスタッフも含め実施できるよう教育課程の検討を進めており、次年度以降実施する予定」とされているが、早急に実施できるよう、検討を進めてほしい
	1-⑤-3 附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備 ＜教職大学院＞	1-⑤-3-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・ <u>コーディネーター研修の実績を示してほしい。</u>

【年度末】

				<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター研修に関する中間評価時のコメントに対する回答の確認を行う必要がある。 ・コーディネーター研修は実際されたのか記載願いたい。
	1-⑤-4	いじめ対策等生徒指導推進事業の推進 ＜子どものこころの発達研究センター＞	1-⑤-4-1	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p>
	1-⑤-5	インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示 ＜教職大学院＞	1-⑤-5-1	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p>
1-⑥	<p>国際地域学部を中心に、地域の創生を担い、グローバル化する社会の発展に寄与できる人材を育成するため、これまでの「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地（知）の拠点整備事業」での実績を活かし、地域の企業や自治体の協力を得て行う課題探求プロジェクトを中心とした探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施する。さらに、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。</p> <p>＜全学教育改革推進機構＞</p> <p>＜国際地域学部＞</p>			<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、「他部局への随時適用」が実際にどの程度可能であるのかを具体的に検討する必要がある。 ・GGJ 事業の検証結果に基づき、今後の英語教育の在り方についての検討は進んでいるのか記載願いたい。
	1-⑥-1	<p>国際地域学部を中心に、これまでの「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地（知）の拠点整備事業」での実績を活かし、地域の企業や自治体の協力を得て行う課題探求プロジェクトを中心とした探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施する。</p> <p>＜国際地域学部＞</p>	1-⑥-1-1 (1-⑥-1-1-1～4)	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期終了時の TOEFL 目標値の到達状況はいかがか。 ・中期計画では「国際水準での教育を実施する」としているが、国際水準であることの担保を検討いただきたい。 ・教育学部のみ取り組みが記載されていないが、記載する必要があると思われる。 ・<u>国際地域学部における 2) 及び 3) の取組状況はどうなっているのか記載願いたい。</u>
	1-⑥-2	<p>その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。</p> <p>＜全学教育改革推進機構＞</p> <p>＜国際地域学部＞</p>	1-⑥-2-1 (1-⑥-2-1-1～5)	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際地域学部で実施された探求型能動的学修の具体的な学修成果を示すことができるのか。 ・医学部についても、専門の内容からして少なくとも「探求型能動的学修」は行われていると推測されるので、何らかの記載は可能ではないか。 ・医学部では「探究型」は実施していないと思われるが、医学科であれば、医学コア・カリキュラムに準拠し、「課題解決型」の能動的学習を実施している旨を記載してはどうか。

【年度末】

	<p>1-⑦ 教師、医療人、技術者等の社会人の学び直しを支援するため、学びやすい教育システム等を整備し、第 2 期中期目標期間末と比較して、社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを増加させる。 ＜COC 推進機構＞</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文科省提出年度計画には「受講者の満足度および社会のニーズを検証するための方策を策定する」としているが、策定されたのか確認願いたい。 取組の実施状況の記載はあるが、全体としての前年度との比較を記載いただきたい。
	<p>1-⑦-1 (コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度計画に沿った取組等がなされている 文科省提出年度計画では「・・事業の評価を踏まえて」となっているが、具体的にどのように対応するのか明らかでない 	<p>1-⑦-1-1 (1-⑦-1-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なプログラムが実施されているが、<u>受講者数・終了者数など具体的な数値として向上したことを示してほしい。</u> 「受講者の満足度および受講者や社会のニーズを検証するための方策」が策定されたのか明らかでない。 中間評価時のコメントについて、次年度以降留意する必要がある。 プログラムの実施状況の調査・分析や、受講者の満足度および受講者や社会医ニーズを検証するための方策は策定されたのか記載願いたい。
<p><中期目標 2> グローバル高度専門職業人および地域活性化の中核となる人材の育成拠点として、教育の国際通用性の確保・向上や地域一体型教育の先導的推進に係る取組みなど、質の高い教育を実現するための教育実施体制を整備し運用する。</p>	<p>2-① 質の高い教育を実現するため、平成 28 年度に再編する教員組織・教育組織分離体制を有効に活用し、全学教育改革推進機構に設けたカリキュラム・授業評価委員会を中心として、カリキュラム・マネジメントを行う。さらに、Institutional Research(IR)機能の活用を含め、教育の質保証システムを整備・運用するとともに、国際アドバイザー等による本学の教育全般の「国際的な水準」の検証を行い、教育の国際通用性や学位の質を保証する。 ＜全学教育改革推進機構＞</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文科省提出年度計画に記載された「(1)教育全般に渡る「国際的な水準」について、その要件を明確にする。(2)教育の質保証システム等について検討し、教学マネジメントの具体的方策を策定する」が達成されていない 教育に関する中期計画のうち、この項目のハードルが高いと思われるので、進捗が遅れ気味になるのは致し方ない面があるが、今後取り組みを加速する努力が必要である。 多くの取組において、進捗が遅れているように見受けられる。次年度においては、未対応部分も踏まえ、計画的な取組をお願いしたい。
	<p>2-①-1 全学的な教学マネジメントのもと、Institutional Research(IR)機能の活用を含め、教育の質保証システムを整備する。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞</p>	<p>2-①-1-1 (2-①-1-1-1~3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教育担当副学長が統括する全学的な教学マネジメントのあり方と責任体制の明確化」、「教育の質、教育の国際通用性、学位の質について、その要件の明確化」、「カリキュラム・マネジメントの具体的方策の策定」が年度計画には記載されているが、検討は進んでいるが、本年度中には達成できていない。 IR 室の設置や、教学マネジメントのあり方、要件の設定、具体的方策をめぐる問題点に関する議論という点では一定の進捗が見られたが、「責任体制の明確化」や「具体的方策の策定」が不十分であることから、次年度以降、取り組みを強化する必要がある。 検討は進んでいるように思うが、FD 基本方針以外の要件等が策定されていない。

【年度末】

	<p>2-①-2 1. で整備した教育の質保証システムを運用して教育改善に活かす（P D C A）。その一環として、全学教育改革推進機構に設けたカリキュラム・授業評価委員会を中心として、カリキュラム・マネジメントを行う。その結果質の高い教育が実現されるよう、平成 28 年度に発足する教員組織・教育組織分離体制を有効に活用する。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞</p>	<p>2-①-2-1 (2-①-2-1-1～3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である (コメント) ・「カリキュラム・マネジメント方策（在り方や意義）」は明確化されたのか、明らかでない。 ・カリキュラム・授業評価委員会は設置されたが、カリキュラム・マネジメントに関する議論は未だほとんど行われていないことから、次年度以降議論を推進する必要がある。 ・三つのポリシー見直し以外の諸計画について、実施状況の確認がなされていない。</p>
	<p>2-①-3 1. の一環として、国際アドバイザー等により、本学の教育全般について「国際的な水準」の検証を行う。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞</p>	<p>2-①-3-1 (2-①-3-1-1～3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である (コメント) ・年度計画にあげた「「国際的な水準」にあるための要件」が全学的に策定されていない。 ・「国際的な水準」が何を意味するのかについて、依然として全学的な共通認識がないと思われることから、この点を早急に明確にする必要がある。 ・「本学の教育全般が国際的な水準にあるための要件」が明確となっていない。</p>
	<p>2-② 学生の社会的・職業的自立に向けた教育実施体制整備の一環として、自治体、企業、教育・医療機関等と交流・連携を深め、インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合を行うとともに、インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育を行う取組みを一層推進することにより、学外関係者からの「本学卒業（修了）生に対する高い評価」を維持する。このため、学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的実施等によって組織的に検証を行う。 ＜キャリアセンター＞</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・文科省提出年度計画に記載した「調査する方法」を年度内に策定状況を記載願いたい。</p>
	<p>2-②-1 学生の社会的・職業的自立に向けた教育実施体制整備の一環として、自治体、企業、教育・医療機関等と交流・連携を深め、インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合を行うとともに、インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育を行う取組みを一層推進することにより、学外関係者からの「本学卒業（修了）生に対する高い評価」を維持する。このため、学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的実施等によって組織的に検証を行う。 ＜キャリアセンター＞</p>	<p>2-②-1-1 (2-②-1-1-1～6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・「インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育」の充実を図るとなっているが、図られたのか？それとも平成 29 年度において図るのか？を明確にしてください。</p>
	<p>2-②-2 学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的実施等により、本学卒業（修了）生が社会的・職業的自立に必要な資質・能力等を備えているか、組織的に検証を行う。 ＜キャリアセンター＞</p>	<p>2-②-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・キャリアセンターが本年度実施したアンケートには教員が含まれていないことと関連して、教育学部が教員となった卒業生の勤務校に対する調査をどのように実施する予定であるのかを確認する必要がある。 ・就職先の企業等へのアンケート調査を実施しているが、今年度の計画にある、「卒業（修了）生および就職先関係者への調査方法等」を策定の上、実施したのかを明確にしてください。 ・<u>評価状況は向上したのか、示してほしい。</u></p>

【年度末】

	<p>2-③ 大学のグローバル化を促進させる教育実施体制整備の一環として、シラバスや履修単位数制限（CAP 制）の見直し、ナンバリングや柔軟な学事暦の導入等によって、国際的に通用する教務システムを整備する。特に国際地域学部はこれらの取組みを先導して実施し、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。</p> <p>< 全学教育改革推進機構 > < 国際地域学部 ></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度には、「国際的に通用する教務システム」に関して、可能であれば国内の他大学の状況やアメリカの大学における実情について調査すべきである。 「国際的に通用する教務システム」の要件が明確となっていないこと、また、国際地域学部での運用状況とその成果の検証が進んでいないように思われる（進捗状況が不十分である）。
	<p>2-③-1 カリキュラム・マネジメント（2-①-2）の一環として、シラバスや履修単位数制限（CAP 制）の見直し、ナンバリングや柔軟な学事暦の導入等を行い、（1-③-3 などの取組とあわせ）国際的に通用する教務システムを整備する。</p> <p>< カリキュラム・授業評価委員会 > < 国際地域学部 ></p>	<p>2-③-1-1 （2-③-1-1-1～6）</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「国際的に通用する教務システム」の要件は明確化されたのか 「国際的に通用する教務システム」の要件の明確化に関しては遅れが見られるので、この点での取組みを強化する必要がある。 「国際的に通用する教務システム」の要件が明確となっていない（進捗状況が不十分である）。 「国際地域学部設置にあたり整備した国際水準での教務システム」とあるが、「国際的に通用する」と「国際水準での」との違いは何か？同じであるならば、本学として国際地域学部を導入しているものが「国際的に通用する教務システム」ということになり、改めて要件を明確にする必要はないと思われる（進捗状況が不十分である）。
	<p>2-③-2 国際地域学部はこれらの取組みを先導して実施し、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。</p> <p>< カリキュラム・授業評価委員会 > < 国際地域学部 ></p>	<p>2-③-2-1 （2-③-2-1-1～6）</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「国際地域学部における履修指導等の仕組みについて、3月28日（火）開催の全学教務学生委員会において説明し、理解を図った。」としているが、実際に理解が深まったとする資料はないか（今から、当時参加していた教員にアンケートするとか）。 国際地域学部の履修指導に関する全学への説明はある程度行われたが、同学部における運用状況とそれに基づく検証をさらに行う必要がある。また、平成 29 年度には、それを踏まえて「他学部への随時適用」についての議論を具体化する必要がある。 国際地域学部の教務システムについて理解を図る機会は設けたが、特に、米国型 13 段階成績評価基準の導入に対する成果が見えない。これでは、他学部での検討は難しいのではないか。
<p>< 中期目標 3 > 学生と教職員の良好な関係のもと、ステークホル</p>	<p>3-① 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用し、ステークホルダーの高い満足度を維持する。このため、学生等への意見聴取の継続的实施等によって組織的に検証を行う。特に、就職先から高く評価されている就職支援体制を基盤として、積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね 96%前後の高い就職率を維持する。</p> <p>< 高等教育推進センター（学生支援部門） ></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 3-①-3 において、平成 28 年度に策定することとなっている「運用計画」が策定されていない。

【年度末】

ダーの満足度が 高い修学支援、生 活支援、留学支援 等とともに、高い 実績を持つ就職 支援を推進する。	3-①-1 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用する <高等教育推進センター（学生支援部門）>	3-①-1-1 (3-①-1-1-1~8)	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント)
	3-①-2 学生支援体制について学生等への意見聴取を継続的に行い、組織的に検証を行う。 <高等教育推進センター（学生支援部門）>	3-①-2-1 (3-①-2-1-1~5)	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活実態調査を実施しているが、第2期では満足度調査を行った。それとの比較ならば、満足度調査に相当する調査を実施する必要がある。 ・意見聴取の方法、対象者の検討の中で、前回からの変更（改善）はあったのか？あったのであれば成果に記載した方が良いと思われる。
	3-①-3 積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね96%前後の高い就職率を維持するとともに、就職先での高い評価を得る。 <キャリアセンター>	3-①-3-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・2-②-2と同様に、教育学部が教員となった卒業生の勤務校に対する調査をどのように実施する予定であるのかを確認する必要がある。 ・平成28年度に策定することとなっている「運用計画」が策定されていない。
3-② 在学生の留学や外国人留学生の受入れを積極的に進めるために、留学の情報提供、修学・生活・就職にわたる総合的できめ細かい支援を行う。そのために、留学関係事務の改善や留学生受入れの入試改革などを行うとともに、留学生用住居を拡大する。 <国際センター運営委員会>	3-②-1 外国人留学生の受入を積極的に進めるため以下の取組を実施する。 (1)短期留学生、正規留学生とリクルートする対象を明確にした上で、それぞれのグループに対しにどのような学術プログラムが提供されているか、その特徴と強み、なぜ福井大学で学ぶべきなのかなど、情報提供を行う。 (2)修学、生活、就職に及ぶ総合的且つきめ細かい支援体制を整備、運用する。同時に、国際通用性のある入試制度の導入や、留学生用住居の拡充、就職など、それぞれの支援体制の整備、充実を図る。 <国際センター運営委員会>	3-②-1-1 (3-②-1-1-1~6)	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に挙げた具体的な取組みごとに成果・実施状況を記載願いたい。 ・「修学、生活、就職に及ぶ総合的且つきめ細かい支援体制」の整備は進んでいるのか。 ・基本計画の検討は具体的にどのような体制で開始されているのかを確認する必要がある。 ・基本計画の検討について記載願いたい。
3-②-2 在学生の海外留学を積極的に進めるために、学術交流協定校の学術プログラム、留学費用、課外活動、施設、その他のサービス等の情報提供や、留学前準備、留学中の履修・生活・危機管理など支援体制を充実させる。 <国際センター運営委員会>	3-②-2-1 (3-②-2-1-1~6)	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・具体的にどの程度協定校数が増加したか、明確に示されたい。 ・支援体制の整備は進んでいるのか。 ・「支援体制の整備」とは具体的に何を意味しているのか？ ・留学する学生への支援体制について記載願いたい。 	

【年度末】

<p><中期目標 4> 多様な志願者や社会ニーズ等に適切に対応するとともに、新たな高大接続入試の創出に繋がる高大連携等を推進し、知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する選抜方法により、多様な学生の受入れを進める。</p>	<p>4-① 一体的な 3 ポリシーのもと、達成度テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する。さらに、新たな高大連携のあり方およびそこの学習成果に基づく多様な能力を多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行うとともに、それを通して高大接続入試、特に個別選抜の改善に資する。国際地域学部では、高大接続 AO 入試を平成 29 年度から実施するとともに、他学部での導入を検討する。 <入学試験委員会></p>	<p>4-①-1 達成度テスト（仮称）や大学入学希望者学力評価テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する。 <入学試験委員会></p>	<p>4-①-1-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>
			<p>（コメント）</p>	
		<p>4-①-2 新たな高大連携のあり方を検討・実施し、高大連携教育によって生徒が得た学習成果や多様な能力をルーブリック等により多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行う。 <入学試験委員会></p>	<p>4-①-2-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>
	<p>（コメント）</p>			
	<p>4-①-3 2. で開発した評価手法を取り入れた高大接続入試（特に、個別選抜）を実施する。特に、国際地域学部では、高大接続 AO 入試を平成 29 年度から実施するとともに、他学部でもその特性に合わせて導入を検討する。 <入学試験委員会></p>	<p>4-①-3-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	
	<p>（コメント）</p>			
	<p>4-② 志願者・入学者の状況やアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行うとともに、必要に応じて入学定員の見直しを行う。さらに課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発展させるとともに、初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-1 志願者や入学者の状況、選抜方法や教育課程とアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行う。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-1-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>
			<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画「志願者・入学者の状況とアドミッション・ポリシーとの整合性や入学定員の適正さの点検を行う」について、具体的な点検結果が提示できるようにしていただきたい。 ・AP と現行入試との整合性についての点検及び確認はなされているが、計画では「志願者・入学者の状況」との整合性を点検するとなっており、各学部において点検が行われたのかを記載願いたい。 	
		<p>4-②-2 必要に応じて入学定員の見直しを行う。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-2-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>
		<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検結果が出ているのであれば記載願いたい。 		
<p>4-②-3 課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発展させる。 <入学試験委員会></p>		<p>4-②-3-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	
<p>（コメント）</p>				

平成 28 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

【年度末】

	<p>4-②-4 初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-4-1 (4-②-4-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント)</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------	---------------------------------------

< 検証結果を示す記述 >
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【研究】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 28 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント
<p>< 中期目標 1 > 国際・国内研究拠点の形成を目指し、先端的画像医学研究、遠赤外領域開発・応用研究、原子力安全・危機管理研究、教師教育研究などを学内横断的かつ重点的に推進する。</p>	<p>1-① 本邦初の分子イメージング部門を擁し、世界最先端画像医学研究拠点の一つである高エネルギー医学研究センターを中心に、子どものこころの発達研究センター等も参画し、子どものこころの発達研究、脳科学研究等に関する国際・国内共同研究、医工連携研究活動を積極的に実施する。これらにより、生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。 < 高エネルギー医学研究センター ></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
	<p>1-①-1 (目標を実現するための推進方策) 高エネルギー医学研究センターを中心に、子どものこころの発達研究センター等も参画し、子どものこころの発達研究、脳科学研究等に関する国際・国内共同研究、医工連携研究活動を積極的に実施する。 < 高エネルギー医学研究センター ></p>	<p>1-①-1-1 1-①-1-2 1-①-1-3 1-①-1-4 1-①-1-5 1-①-1-6</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・高エネルギー医学研究所、子どものこころの発達研究センターにおける、様々な研究が順調にスタートしている。ただし具体的な数値は得られていない。総合 DB に入力中のため次回からは具体的な検証が可能となることを期待する。 ・評価指標では開発実績、プロトコル数など、具体のエビデンスが必要となっているが記載がない。次年度は実績として具体にあげていただきたい。 ・具体的な成果はすぐには提示できないであろうが、国際・国内共同研究や医工連携研究活動の実施状況、特に、後者の取組については具体的な状況を記載願いたい。 ・1-①-1-6 を除いては「取り組む（計画）」→「取り組んだ（進捗状況）」の形になっているので、信頼関係を前提に大きな問題なく進捗していると判断できるものの、客観的には「進捗の程度」を判断しづらい。</p>
	<p>1-①-2 (中期計画に記載の評価指標) 生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期より 20%以上増加させる。 < 高エネルギー医学研究センター ></p>	<p>1-①-2-1 1-①-2-2 1-①-2-3 1-①-2-4 1-①-2-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・こどもの心の発達研究センターでの共同研究（国際共同研究を含む）、論文数は進捗状況が良好である。また受賞も順調に増えている。 ・学術誌への英語論文掲載数を第 2 期より 20%以上増加させるとなっているが、短期間の数値なのではっきりとは分からないが、掲載数は第 2 期並みないしやや少ないように思える。 ・比較の第 2 期の数字が明確でないため、判断保留。 ・基準値を基にした向上状況を示唆するコメントを記載願いたい。 ・成果の一つとして、報道等に取り上げられた件数も記載願いたい。</p>
	<p>1-② 我が国唯一で世界的にも優れた高出力遠赤外光源ジャイロトロンの研究開発実績を踏まえ、公募型国内共同研究、国際共同研究の実施や国際ワークショップの主催等を通して、新しい学術研究としての遠赤外分光・計測研究、遠赤外領域の先端科学研究および高出力遠赤外技術開発研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。 < 遠赤外領域開発研究センター ></p>		<p>(検証結果)</p> <p>(コメント)</p>
	<p>1-②-1 (目標を実現するための推進方策) 公募型国内共同研究、国際共同研究の実施や国際ワークショップを開催する。 < 遠赤外領域開発研究センター ></p>	<p>1-②-1-1 1-②-1-2 1-②-1-3 1-②-1-4 1-②-1-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・国際ワークショップの開催、ニュースレターの発行等を実施し、目標を達成したと考えられる。</p>

【年度末】

		1-②-1-6	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの具体の取組について、着実な進展が認められる。
	<p>1-②-2 （中期計画に記載の評価指標）</p> <p>学術誌への英語論文掲載数を第 2 期より 20%以上増加させる。</p> <p>＜遠赤外領域開発研究センター＞</p>	<p>1-②-2-1</p> <p>1-②-2-2</p> <p>1-②-2-3</p>	<p>(検証結果)</p> <p>保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合 DB から情報収集が可能なシステムへの整備の必要性が記載されているが、具体的な数値は記載されていない（現在総合 DB 対応中でしょうか？）。 「取り組む（計画）」→「取り組んだ（進捗状況）」の形になっているので、信頼関係を前提に大きな問題なく進捗していると判断できるものの、客観的には「進捗の程度」を判断しづらい。 比較の第 2 期の数字が明確でなく、今年度の数の記載がないため、判断保留。 状況に変化が見られないため、中間評価と同様の検証結果とせざるを得ない。 年度末の実績（論文数、受賞状況、共同研究数などの評価指標）を記載願いたい。さらに、基準値を基にした向上状況を示唆するコメントを記載願いたい。 成果の一つとして、報道等に取り上げられた件数も記載願いたい。
<p>1-③ 「安全と共生」を基本として平成 21 年 4 月に設置された附属国際原子力工学研究所を中心に、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップの開催等を通して、軽水炉および高速炉の安全性向上、原子力防災・危機管理、原子力施設の廃止措置、放射性廃棄物の減容および毒性の低減等に関する先進的研究を一層推進し、国際・国内共同研究等の実施件数、国際ワークショップ等の開催数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。また、論文の被引用数と研究成果に基づく受賞の実績を増加させる。</p> <p>＜附属国際原子力工学研究所＞</p>			<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
	<p>1-③-1 （目標を実現するための推進方策）</p> <p>公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップを開催する。</p> <p>＜附属国際原子力工学研究所＞</p>	<p>1-③-1-1</p> <p>1-③-1-2</p> <p>1-③-1-3</p> <p>1-③-1-4</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的協同研究内容が記載され、順調に進展していることが伺える。国際ワークショップ開催についても進捗状況の 1-③-1 の欄に記載すべき（国際会議、あるいはセミナー？） 海外研究機関との研究者の相互派遣において、仏国 I N S T N の学生の受け入れはあるが、本学学生の派遣の状況はどうか。 それぞれの具体の取組について、着実な進展が認められる。
	<p>1-③-2 （中期計画に記載の評価指標）</p> <p>国際・国内共同研究等の実施件数、国際ワークショップ等の開催数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期より 20%以上増加させる。また、論文の被引用数と研究成果に基づく受賞の実績を増加させる。</p> <p>＜附属国際原子力工学研究所＞</p>	<p>1-③-2-1</p> <p>1-③-2-2</p> <p>1-③-2-3</p> <p>1-③-2-4</p> <p>1-③-2-5</p>	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 投稿、アクセプトされた論文が記載されている（1-③-2-3、1-③-2-4 の欄のナンバリングの意味についてご説明頂けますでしょうか？）。また学会賞の受賞も増加している。論文数、被引用回数など、総合 DB の活用が急務である（現在総合 DB 対応中でしょうか？）。 国際・国内共同研究等の実施件数、学術誌への英語論文掲載数が、短期間の数値なのではっきりとは分からないが、第 2 期並みないしやや少ないように思える。 年度末の実績、等に論文数などを記載願いたい。さらに、基準値を基にした向上状況を

【年度末】

				示唆するコメントを記載願いたい。 ・成果の一つとして、報道等に取り上げられた件数も記載願いたい。 ・比較の第 2 期の数字が明確でなく、学術誌への英語論文掲載数と論文の被引用数については情報が不足のため、判断保留。
	1-④	教師の学校内における職能成長を支える制度構築が求められる今日、全国に先駆け学校拠点方式の教職大学院を設置した実績を踏まえ、知識基盤社会において求められる主体的・協働的な学びを中心とする学校を実現する力を持った教師を養成することを目指し、全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発を推進して、福井県教育委員会と連携協働した研修制度の構築、連携・拠点校の拡大、国内外の教師教育のためのネットワークの構築を実現する。 ＜教育学研究科＞		(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・中期計画では「全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発」と記載されており、研究としての成果を強調していただきたい。
	1-④-1	(目標を実現するための推進方策) 全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発を推進する。 ＜教育学研究科＞	1-④-1-1 1-④-1-2 1-④-1-3 1-④-1-4 1-④-1-5 1-④-1-6 1-④-1-7 1-④-1-8 1-④-1-9	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・1-④-1-8 のラウンドテーブルを予定が開催した、に変更となった以外、記載内容の変更はなく、中間以降の進捗は見られていない。一部数値目標を達成していない項目があるが、中間のコメントにもあるように「60%」などの数値に意味はあるのか。 ・年度計画が試行を進めるとあるが、進捗は思考に向けての調整のみであり、進捗が見られない。 ・アクティブ・ラーニング型教員養成カリキュラムの進捗はどうか。 ・本学教員・院生の海外研修の状況はどうか。 ・取組は実施されているが、その成果はどうか。 ・それぞれの具体的な取組は順調に進捗していることが窺えるが、「附属学園の公開研究会に大学教員の 40%以上が参加」は達成できたのか、明らかでない。 ・文科省提出年度計画に記載された「チーム学校」に関する取組はなされているのか。
	1-④-2	(中期計画に記載の評価指標) 福井県教育委員会と連携協働した研修制度の構築、連携・拠点校の拡大、国内外の教師教育のためのネットワークの構築を実現する。 ＜教育学研究科＞	1-④-2-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・取り組みが行われていることはわかるが、記載内容の変更はなく、中間以降の進捗は見られていない。 ・評価指標の学校改革核に組み学校数の記載がない。 ・難しいかとは思いますが、達成状況を示す数値データを示してほしい。
<中期目標 2> 科学技術の発展に寄与する学術研究や地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する。	2-①	医学部・同附属病院では、地域の直面する少子高齢化や過疎化に対応するため、がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体件数等を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。 ＜医学部・医学系研究科＞		(検証結果) 保留 (コメント)
	2-①-1	(目標を実現するための推進方策) がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進する。 ＜医学部・医学系研究科＞	2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3 2-①-1-4	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・研究が順調に推進されている。すべての研究室を鳥瞰し、進捗状況を具体的に記載することは難しい。論文数、被引用回数など、総合 DB によるモニタリング方法の確立が急

【年度末】

				務である。総合 DB の第二期のデータ（2010～2015）については年度データが欠落し、順番もバラバラで活用できない状態となっていて依然修復されていない。これらのデータを活用できる状態に戻すことが急務である。 ・評価指標は研究実績となっているため、今後その提示が必要である。 ・研究が進行していると推定されるが、それぞれの具体的な取組みの中で、優れた成果、あるいは関連する報道などを記載願いたい。 ・進捗状況が全て「研究を推進中である」となっており、判断ができない。
	2-①-2	（中期計画に記載の評価指標） 学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第 2 期よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第 2 期より 20%以上増加させる。 <工学部・医学系研究科>	2-①-2-1 2-①-2-2 2-①-2-3 2-①-2-4	（検証結果） 保留 （コメント） ・論文数、被引用回数など、総合 DB によるモニタリング方法の確立が急務である（現在総合 DB に 2015、2016 のデータを入力中）。 ・進捗状況（中間）と同（年度末）が同じ内容であり、中間と同じ評価とせざるを得ない。 ・比較の第 2 期の数字が明確でなく、今年度の数の記載がないため、判断保留 ・状況に変化が見られないため、中間評価と同様の検証結果とせざるを得ない。 ・ <u>年度末の実績、等に論文数などを記載願いたい</u> 。さらに、基準値を基にした向上状況を示唆するコメントを記載願いたい。 ・成果の一つとして、報道等に取り上げられた件数も記載願いたい。
	2-②	前身の福井高等工業学校設置から 90 年以上の間、工学の幅広い分野で研究を遂行し、地域および我が国の産業力強化に貢献してきた歴史を踏まえ、工学分野の研究を強化し、工学研究科が推奨指定している質の高い学術雑誌への論文掲載数を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。特に、ミッションの再定義で重点化した繊維・機能性材料分野では第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。この目標を達成するために、メリハリのある予算配分や重点研究グループの選定、学科・専攻の枠を超えた人事の実施、研究動向の迅速な把握、定期的な異分野間の交流支援、共同研究の成果発表への投稿料助成等により、工学分野で優れた学術基盤研究・発展研究の推進、重点分野の育成を行う。 <工学部・工学研究科>		（検証結果） 保留 （コメント） ・文科省提出年度計画には「平成 29 年度には一部運用できるように進める」とされているが、運用できるめどは立っているのでしょうか。
	2-②-1	（目標を実現するための推進方策） メリハリある予算配分や重点研究グループの選定、学科・専攻の枠を超えた人事の実施、研究動向の迅速な把握、定期的な異分野間の交流支援、共同研究の成果発表への投稿料助成等を行う。 <工学部・工学研究科>	2-②-1-1 2-②-1-2 2-②-1-3 2-②-1-4 2-②-1-5	（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・人事、研究支援面での取り組みが順調に進捗している。また研究内容のリスト化は達成が難しくないと考えられる。 ・取組は実施されているが、その成果はどうか。
	2-②-2	（中期計画に記載の評価指標） 工学研究科が推奨指定している質の高い学術雑誌への論文掲載数を第 2 期よりも増加させる。特に、ミッションの再定義で重点化する繊維・機能性材料分野では第 2 期より 20%以上増加させる。 <工学部・工学研究科>	2-②-2-1 2-②-2-2	（検証結果） 保留 （コメント） ・論文数、被引用回数など、総合 DB によるモニタリング方法の確立が急務である。 ・まだ再点検中であり、現地点での評価はできない。 ・比較の第 2 期の数字が明確でなく、今年度の数の記載がないため、判断保留。 ・状況に変化が見られないため、中間評価と同様の検証結果とせざるを得ない。 ・ <u>年度末の実績、等に論文数などを記載願いたい</u> 。さらに、基準値を基にした向上状況を示唆するコメントを記載願いたい。 ・成果の一つとして、報道等に取り上げられた件数も記載願いたい。

【年度末】

<p><中期目標 3> 社会のニーズを踏まえ、本学の特色を生かした研究成果を社会に還元する。</p>	<p>3-① 福井方式として認知された産業活性化活動を進めてきた産学官連携本部を中心に、民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築し、地域・社会の発展に資する産業や豊かなくらしに関わる共同研究およびグローバルに訴求力のある知的財産の継続的創出を推進し、特許活用率および県内企業との共同研究割合を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。</p> <p><産学官連携本部></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>	
		<p>3-①-1 (目標を実現するための推進方策) 民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築する。</p> <p><産学官連携本部></p>	<p>3-①-1-1 3-①-1-2 3-①-1-3 3-①-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・評価指標の最終の数字が出ていないが、どの数字で適切なかが不明。 ・「平成 28 年度地域イノベーション・エコシステム及び地域科学技術実証拠点整備事業に申請」とありますが、採択結果はいかがでしょうか。 ・様々な取り組みが順調に進んでいると思われるが、<u>年度末の数値によって確認したい。</u> ・福井銀行をはじめ、様々な取り組みが順調に推移している。4 月 14 日はすでに過ぎているので、データの提供があるとより記載しやすい。</p>
		<p>3-①-2 (中期計画に記載の評価指標) 特許活用率および県内企業との共同研究割合を第 2 期よりも増加させる。</p> <p><産学官連携本部></p>	<p>3-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・中間に比べ、相談件数、共同研究数の変動は少ない。4 月 14 日はすでに過ぎているので、データの提供があるとより記載しやすい。 ・地域企業共同研究件数は増加しているが、評価指標としての「割合」はいかがか。 ・「進捗状況が概ね良好である」と思われるが、比較対象の第 2 期の数が不明であり、保留とした。 ・比較の第 2 期の数字が明確でなく、今年度の数の記載がないため、判断保留。 ・<u>地域企業共同研究件数は増加しているが、評価指標としての「割合」はいかがか。</u></p>
<p><中期目標 4> 研究活動の高度化および効率化のために、研究の体制および環境を整備する。</p>	<p>4-① 国際的な共同研究および研究者交流を推進するとともに、新たな学問領域の創生や社会的な課題解決のために、国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築し、国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間の共著論文等の数を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。</p> <p><研究推進委員会></p>		<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント) ・文科省提出年度計画に「医工教連携研究推進事業」が記載されており、この事業に関する実績はいかがか。</p>	
		<p>4-①-1 (目標を実現するための推進方策) 国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築する。</p> <p><研究推進委員会></p>	<p>4-①-1-1 4-①-1-2 4-①-1-3 4-①-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・今年度のライフセンターの実施する医工教連携研究支援事業については、ここに記載されている以外に、旧 TR センターからの応募が激減しているため、更なる強化策が必要である。人的支援については順調にスタートしている。 ・連携体制の構築に、この度の教教分離がいかに活用されたのかの視点も考慮していただきたい。 ・多機関との連携実績など、様々な取り組みが進んでいるが、その実績は第二期に比べ向上したのか。</p>

【年度末】

	4-①-2 （中期計画に記載の評価指標） 国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間の共著論文等の数を第2期よりも増加させる。 ＜研究推進委員会＞	4-①-2-1 4-①-2-2 4-①-2-3	(検証結果) 保留 (コメント) ・論文数、被引用回数など、総合DBによるモニタリング方法の確立が急務である。 ・具体的な数が不明なため。 ・比較の第2期の数字が明確でなく、今年度の数の記載がないため、判断保留 ・状況に変化が見られないため、中間評価と同様の検証結果とせざるを得ない。
	4-② リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研究資金の獲得等により、研究力を強化し、研究活動を効果的・効率的に推進する。 ＜新産学連携・研究推進組織＞		(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント)
	4-②-1 （目標を実現するための推進方策） リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研究資金の獲得等を行う。 ＜新産学連携・研究推進組織＞	4-②-1-1 4-②-1-2 4-②-1-3 4-②-1-4	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・文京キャンパスはよいが、松岡キャンパスにおける研究支援体制について強化策の記載が明確ではない。
	4-②-2 （中期計画に記載の評価指標） － ＜新産学連携・研究推進組織＞	4-②-2-1 4-②-2-2	(検証結果) 保留 (コメント) ・IRを実施するためには、総合DBによるモニタリング方法の確立が急務である。 ・「進捗状況が概ね良好である」と思われるが、中間以降の数値が不明なため、保留とした。 ・今年度の数の記載がないため、判断保留。 ・状況に変化が見られないため、中間評価と同様の検証結果とせざるを得ない。 ・年度末の数値を拝見したい。 ・「共同・受託研究や補助金等外部研究資金獲得を推進するとともに、その獲得・活用戦略を担う支援人材を配置する。」として、4-②-2（中期計画に記載の評価指標）に記載をしたい。
＜中期目標5＞ 研究水準の向上を図るため、適切な評価を実施する。	5-① IR を用いた意思決定支援機能を整備することにより、研究の質・量に関する多面的な評価システムを全学的に充実・強化して、先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援を行うなど、戦略的な研究資源配分を行う。 ＜新産学連携・研究推進組織＞		(検証結果) (コメント)
	5-①-1 （目標を実現するための推進方策） IR を用いた意思決定支援機能を整備することにより、研究の質・量に関する多面的な評価システムを全学的に充実・強化する。 ＜新産学連携・研究推進組織＞	5-①-1-1 5-①-1-2 5-①-1-3 5-①-1-4	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・新しい取り組みが実施されており、IRの運用が今後反映されることが期待される。また研究資源配分については有用な議論が進められた。 ・様々な取組みが順調に進んでいる。 ・参加実績（参加者数）など、具体的な数値を示してほしい。

【年度末】

		<p>5-①-2 （中期計画に記載の評価指標）</p> <p>先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援を行うなど、戦略的な研究資源配分を行う。</p> <p><新産学連携・研究推進組織></p>	<p>5-①-2-1</p>	<p>(検証結果)</p> <p>保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合 DB によるモニタリング方法の確立が急務である。 ・実際の活動がこれから。 ・具体的に。成果のモニタリングは何をするのか。 ・状況に変化が見られないため、中間評価と同様の検証結果とせざるを得ない。 ・研究 IR レポートの作成を試行した。 ・設備サポートなどの全学的な研究支援戦略と、研究 IR の推進及びそれを活用した効率を評価できる研究活性化プランを作成し、研究力強化と情報収集を連動させる仕組みを企画した。 ・企業情報を含むデータベースを構築した。 ・論文数などは総合 DB の整備が必要であろうが、ここで挙げられている評価指標（資源配分状況）は把握されているのではないですか。
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

＜検証結果を示す記述＞
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【社会貢献】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 28 年度進捗状況（年度末）に対する IR 室コメント
<p>＜中期目標 1＞ 地域の知の拠点として地域社会との連携を強化し、地域社会を志向した教育・研究を推進し、地域の人材養成と課題解決に寄与する。</p>	<p>1-① 自治体および地域産業界との連携を強化するとともに、県内 5 大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い、卒業生の地域定着を推進するために、COC 推進機構を中心とする全学的な地域貢献推進体制を平成 28 年度末までに確立し、ふくい COC+事業評価委員会などの外部評価委員会とアドバイザーボード等による評価および事業推進委員会による改善を継続的に実行する。 ＜COC 推進機構＞</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・総合データベースの改修を完成させることを最優先し、社会貢献活動の確実な蓄積が不可欠である。 ・アドバイザーボードにおける学生および産業界等からの意見の分析と COC+事業の見直しを検討していく必要がある。 ・教員の社会貢献活動に応じたインセンティブや表彰制度について平成 3 0 年度までの導入スケジュールを明示する必要性について検討願いたい。 ・中間評価後も、教員の社会貢献活動の収集を行うデータベースは未完全なままであり、年度末による教員の移動により情報の喪失が危惧される（進捗状況が不十分である）。</p>
	<p>1-①-1 自治体および地域産業界との連携を強化するとともに、県内 5 大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い卒業生の地域定着を推進するために、COC 推進機構を中心とする全学的な地域貢献推進体制を平成 28 年度末までに確立する。 ＜COC 推進機構＞</p>	<p>1-①-1-1 1-①-1-2 1-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・学長を機構長とする COC 推進機構により、地域・社会貢献事業の威厳管理体制の構築、ならびにふくい COC+事業推進協議会と教育プログラム開発委員会の下で、福井県及び県内 5 大学が連携し、地域志向教育と特色人材を育成する体制が整えられたことは評価できる。 ・教員の社会貢献活動の確実な記録を行う総合データベースのあり方と、それに基づく評価システムは検討を開始した段階であることなど、今後改善が必要な課題が残されている。 ・地域創生に資する人材育成を目的とする自治体及び地域産業界との連携体制として、ふくいオープンイノベーション推進機構への参画は実現したが、今後はそれに基づく新産業の創出に繋がる共同研究、社会人のキャリアアップ等の実績を評価可能な指標で示していくことも検討する必要がある。 ・年度計画に予定された取組みが順調に進捗している。</p>
	<p>1-①-2 ふくい COC+事業評価委員会などの外部評価委員会とアドバイザーボード等による評価および事業推進委員会による改善を継続的に実行する。 ＜COC 推進機構＞</p>	<p>1-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・COC 事業の様々な取組に対する連携自治体等の評価を取り入れた中間報告書の作成と、関係機関への送付、ヒアリングによる意見収集など、取組の記録・検証・評価が着実に実行されていることが確認でき評価できる。 ・COC+のアドバイザーボードが開催され、学生および産業界からの意見集約が実現したが、事業推進委員会等により次年度以降の COC+に係る取組の改善を検討していく必要がある。 ・COC+平成 28 年度評価結果は「計画どおりの取組であり、現行の努力の継続により目的を達成することができる」との評価を受けたことは喜ばしいが、雇用創出数などが併記された課題に対する対応が必要である。 ・良好な中間評価結果は取組みが順調に進捗している証左となる。なお、指摘されたであろう点について、改善するようお願いしたい。</p>

【年度末】

<p>1-② 地域志向と主体性の育成を重視した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させるとともに、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。また、グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋げるとともに、地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。</p> <p><COC 推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ふくい地域創生士の認定基準が設定され、在学生に周知するとともに、平成 29 年度から実施できる体制が整った。 ・高大連携活動については、地道かつ広範囲に実施されていることは評価できるが、地域からの入学者の減少対策という面からは効果は疑問であり、地域の持続的発展に貢献するという本学の基本的ミッションに叶う実施方法も検討すべきではないか。 ・確認ですが、文科省提出年度計画に記載された地域創生教育研究センターは設置されたのでしょうか。</p>
<p>1-②-1 地域志向と主体性の育成を重視した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させる。</p> <p><COC 推進機構></p>	<p>1-②-1-1 1-②-1-2 1-②-1-3 1-②-1-4 1-②-1-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・同左（中間へのコメント）に加え、28 年度後期のサテライトキャンパスでの開放科目については、受講者数、単位取得者数ともに期待以上であること、双方授業については、28 年度後期から実施され、29 年度からは各大学 1 科目を提供することが決定していることなど、全体的に順調に進捗していると判断される。 ・産業人のグローバル教育については、評価指標である延べ参加人数を記入頂きたい。 ・年度計画に予定された様々な取組みが順調に進捗している。今後は、関係者の満足度など、具体的な成果を示せる資料の収集にも配慮願いたい。 ・1-②-1-1、1-②-1-3 教育学部、医学部：当該事項で学部からの報告が無い。今後の積極的な情報提供をお願いします。 ・1-②-1-3 教務課：認定制度WGについて、年度末までに検討状況を記述すること。</p>
<p>1-②-2 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。</p> <p><COC 推進機構></p>	<p>1-②-2-1 1-②-2-2 1-②-2-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・地域志向科目 2 科目 4 単位を卒業要件となり、本学提供の科目により、すべての学生が地域志向科目を受講できるカリキュラムが構築されたこと、開放科目受講者アンケート等を受けて、開放科目が新設されるなど改善が行われたこと、ふくい地域創生士の認定要件を決定し学生に周知できたことは高く評価される。一方で、F スクエアでの開放科目の受講を阻害する時間割がとられており、効率的な受講を促す改善が必要である。 ・1-②-2-3：インターンシップ関係についての参加者数やその増減、県内定着状況の記述は不可欠ではないか？ ・1-②-2-1、1-②-2-2 教育学部、医学部：当該事項で学部からの報告が無い。今後の積極的な情報提供をお願いします。 ・年度計画に予定された様々な取組みが順調に進捗しているが、その成果によって「すべての学生が地域志向科目を受講できるカリキュラムの完成」が達成できたのでしょうか。</p>
<p>1-②-3 グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋げる。</p> <p><地域貢献推進センター></p>	<p>1-②-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・GSC については、積極的な受講者を多数受け入れ、密度の高い取組を実施し、成果公表の機会設定まで適切で高く評価できる。 ・地域の児童・生徒に先進的教育を提供する目標は達成していると判断できる。一方で、高大連携教育を行った人材を本学に入学させ高度専門職業人として育成し、地域に定着させ、地域の持続的発展に貢献する仕組みも検討</p>

【年度末】

			<p>してくべ記ではないか。本学の県内出身者の激減対策について、高校の受験指導者との連携も必要と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-②-3-1 教育学部、医学部当該事項で学部からの報告が無い。今後の積極的な情報提供をお願いします。 年度計画で予定された様々な取組みが精力的になされている。なお、<u>参加者数など、定量的な指標がどの程度向上しているかのコメントを記載願いたい。</u>
	<p>1-②-4 地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。</p> <p>＜地域貢献推進センター＞</p>	<p>1-②-4-1 1-②-4-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護実践能力開発講座を7月から翌年2月までの間に25講座実施し、合計456名が受講予定となっているが、<u>確定数に変更する必要あり。</u> 同じく第4回他職種参加型教育セミナーの内容を、<u>参加者数を確定記載する必要あり。</u> 医学部の看護実践能力開発講座、他職種参加型教育セミナー、緊急被爆に強い医療人の育成は順調に実施されていると評価できる。 公開講座については、アンケート調査からニーズの高い分野の講座を数多く実施し参加者から高い評価を得ている。きてみてフェアにおいて、地域貢献活動のパネ及び連携自治体のブース展示を行い、自治体関係者から高い評価を得ている。 生涯学習市民開放プログラムについては、開放科目数、受講者数とも伸び悩み傾向があり、今後検討が必要である。 医学部における緊急被爆に強い医療人、認定看護師等のキャリアアップ教育などは計画通り進捗していると判断できる。 教育学部のCSTに関わる記述を加えたらどうか。 1-②-4-2 教育学部：当該事項で学部からの報告が無い。今後の積極的な情報提供をお願いします。 教育学部のCSTに関わる記述を加えたらどうか。 1-②-4-2 教育学部：当該事項で学部からの報告が無い。今後の積極的な情報提供をお願いします。 年度計画で予定された様々な取組みが精力的になされている。なお、<u>受講者数など、定量的な指標がどの程度向上しているかのコメントを記載願いたい</u>：「キャリアアッププログラムの受講者数の向上状況」はいかがでしょうか。 関係者の満足度のフォローをお願いします。
	<p>1-③ 教育、研究、診療活動などの成果を広く発信し社会に還元するとともに、地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングおよび連携・協働による地域の課題解決に向けた取組みを進める。さらに地域の課題として顕在化した「人材育成」「ものづくり」「持続可能な社会・環境づくり」などの重点分野の教育・研究を進展させるとともに、福井大学と地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学が連携しそれぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献する。</p> <p>＜COC 推進機構＞</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年9月に実施されたCOCの中間評価の評価結果が出た場合は、必要によりそのコメントを活用すること。 文科省提出年度計画に「平成25年度採択のCOC事業で重点化した分野の教育研究状況を検証」があげられているが、中間評価への対応によって検証したのか。
	<p>1-③-1 教育、研究、診療活動などの成果を広く発信し社会に還元する。</p> <p>＜広報センター＞</p>	<p>1-③-1-1 1-③-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> システムの利用者数のカウントをもって客観的指標としないということでしょうか。 広報件数でもって進捗状況の評価するようなイメージを受けるが、広報件数は大学の研究成果を主に反映するだけになり、広報活動を反映した指標とはいえないのではないかと。 ニュースとして報道機関に取り上げてもらいよう、様々な取組みが精力的になされている。その結果、どのくら

【年度末】

			<p>いの件数が取り上げられたのか、集計し、向上状態を示してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本学が所有する知的資源が整理され、必要な時いつでも関係者がその内容を確認・閲覧できるシステム」は完成されたのか。そのシステムの利用者数の向上を評価指標としている関係上、完成していなければならない。 ・先の評価と同様で、メディアへの個別の掲載記録の羅列型となっており、評価指標として設定してある「大学WEBのアクセス件数、外部公開ページの利用者数、技術相談件数、共同研究件数といった評価指標に対応する実績」に関する記述が殆どない（進捗状況が不十分である）。
1-③-2	地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングおよび連携・協働による地域の課題解決に向けた取組みを進める。 <COC 推進機構>	1-③-2-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学部に関しては、「永平寺町で出生した子どもの発達に関する前向きコホート研究」は該当しないということでしょうか。 ・福井県教育委員会の依頼により、子どものこころの発達研究センターが、県内の青少年のいじめ・不登校・ネット依存を未然に防止するための「家庭教育支援リーフレット」を制作したのは、この部分の内容により合致するのではないのでしょうか。 ・COC 事業において、自治体との連携事業が行われ、実績報告書が作成されており、その中で記載された外部評価も好意的で計画通り進展していると評価できる。 ・こどもの心の発達研究センターの「永平寺町で出生した子どもの発達に関する前向きコホート研究」は該当項目としてあげられないのか。 ・1-③-2-1 教育学部、医学部：当該事項で学部からの報告が無い。今後の積極的な情報提供をお願いします。 ・評価指標として「自治体との連携事業数ならびに自治体関連の審議会への派遣教員数の維持」があげられているが、成果を検証できるよう、具体的な数値を示してほしい。
1-③-3	地域の課題として顕在化した「人材育成」「ものづくり」「持続可能な社会・環境づくり」などの重点分野の教育・研究を進展させる。 <COC 推進機構>	1-③-3-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会におけるクラウド型救急医療連携システムの運用研究に関しては、受賞実績があり順調を判断できる。 ・COC 事業において、地域の諸課題を解決するための、コア教員による取組が行われ、実績報告書が作成されており、その中で記載された外部評価も好意的であり計画通り進展していると評価できる。 ・地域貢献活動に関わる教員の割合が、平成 27 年度は 70%程度であったが、28 年度前期時点で 70.7%、後期は 77.0%と増加しており、目標である 90%を達成するためには、教員の意識改革とともに、地域貢献活動の正確な記録と正当な評価を実行する必要がある。 ・好評な中間評価を得ており、事業は着実に進捗していることが確認される。評価指標として「社会貢献に関わる教員が 90%以上」があげられているが、その達成予想についてコメント願いたい。 ・緊急被ばく医療総合シミュレーションコースについて、40 名医師のみならず多職種医療人の参加実績はあるのか？
1-③-4	福井大学と地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学が連携しそれぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献する。 <COC 推進機構>	1-③-4-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力災害時に専門的な対応が行える人材育成の連携について検討となっているが、他の項目では、他職種との連携、訓練実績が記載されているのに、この項目での言及がありません。 ・F スクエアにおいて、原子力技術、福井ブランド創出、まちづくり、バイオ・6 次産業化、国際・地域及び看護福祉分野の共同研究・教育の実績報告及び情報交換が実施されるなど体制の整備は進んでいるが、雇用創出の実

【年度末】

				<p>績をあげるには時間がかかると判断される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に記載した具体的な取組みとして5件挙げられているが、そのうち1件のみが記載されている、その他のものの進捗状況が明らかでない。
<p><中期目標 2> 地域の教育研究拠点としての機能を強化するため、教育・医療・産業界等との協力関係を戦略的に強化し、地域の教育力向上、健康を守る地域医療の向上並びに産業の発展に繋がるイノベーション創出を積極的に推進し、地域・社会の持続的発展に貢献する。</p>	<p>2-① 三位一体改革により、知識基盤社会における先導的な教師教育モデルを提示し、実施中の拠点校方式による教師教育をさらに発展させることと併せ、福井県全 8、000 人の教員の資質向上など、地域の教育力向上に貢献する。そのため、第 3 期中期目標期間中に、教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上を図る。学校教育課程においては、教員養成機能を重視した組織改革を進め、第 3 期中期目標期間中も引き続き教員就職率 70%以上を維持することで、福井県における義務教育教員の占有率 55%以上を目指し、教職大学院の課程においては、現職教員を除く修了生の教員就職率概ね 100%を維持する。</p> <p><教育学部></p>			<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・年度計画に記載された「機能強化の観点から課題の抽出に取り組む」について、具体的な課題は抽出されたのか。 ・地域の実践的教育力の向上に係る様々な取組を行っていることは評価できるが、学部時点の就職率ならびに、【戦略 1】の評価指標である大学院修了者の就職率を毎年概ね 100%維持するという目標がクリアできておらず、29 年度以降の取組の再検討が必要であると思われる（進捗状況が不十分である）。 ・年度末の集計を早急に行い記述頂きたい（進捗状況が不十分である）。</p>
		<p>2-①-1 三位一体改革により、知識基盤社会における先導的な教師教育モデルを提示し、実施中の拠点校方式による教師教育をさらに発展させることと併せ、福井県全 8、000 人の教員の資質向上など、地域の教育力向上に貢献する。</p> <p><教育学部></p>	<p>2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3 2-①-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・いくつかの到達目標が達成されている。 ・2-①-1-1 は中間時と変化がない。 ・2-①-1-2：未記入で評価できない。 ・2-①-1-3：教員育成指標及び協議会の設置に向け、教職大学院の何名のスタッフが何を行っているか読みとれない。 ・2-①-1-4：中間時と変化がない。</p>
		<p>2-①-2 教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上を図る。</p> <p><教育学部></p>	<p>2-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・前回評価時から進捗が殆どない。 ・附属学校等への支援のあり方を検討し、支援したとの記述はあるが、具体的に何を支援したか記入すべきである。 ・初年度であるが、達成目標である「教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保」の達成予想のコメントをいただきたい。</p>
	<p>2-①-3 教員養成機能を重視した組織改革を進め、第 3 期中期目標期間中も引き続き教員就職率 70%以上を維持することで、福井県における義務教育教員の占有率 55%以上を目指し、教職大学院の課程においては、現職教員を除く修了生の教員就職率概ね 100%を維持する。</p> <p><教育学部></p>	<p>2-①-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である。</p> <p>(コメント) ・具体的な成果が記載されておらず、判断できない。</p>	
	<p>2-② 人口減少、高齢化の進む地域社会における医師・看護師を中心とする多職種連携による医療の教育・実践の推進により、生涯学習に参加する多職種の医療人を増加させ、地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増とし、自治体の各種医療審議会などへの教職員の参加実績を引き続き高水準に維持する。さらに、ICT ネットワークを用いた地域医療支援のモデルシステムを構築し、その利用を増加させる。加えて関連病院長会議のメンバーである県内基幹病院を中心に地域医療強化のための連携を推進するとともに、地域医療の向上に貢献する。</p> <p><医学部></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である。</p> <p>(コメント) ・下記のいくつかの項目に関しては、客観的に評価するだけの根拠が不十分です。</p>	
	<p>2-②-1 人口減少、高齢化の進む地域社会における医師・看護師を中心とする多職種連携による医療の教育・実践の推進により、生涯学習に参加する多職種の医療人を増加さ</p>	<p>2-②-1-1 2-②-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である。</p>	

【年度末】

	<p>せ、地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増とし、自治体の各種医療審議会などへの教職員の参加実績を引き続き高水準に維持する。 <医学部></p>	<p>2-②-1-3 2-②-1-4 2-②-1-5</p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した講演会の実施状況を把握するため総合データベースが稼働していないことから、増加率を算定する基準が問題となっている。 ・製薬企業との共催の講演会、医師会との共催などが実績として記載されているが、どの講演会を業績とするかの基準を明確にしないと、製薬企業との共催のもので実施数を数えると、製薬企業のものばかりになる恐れもあります。 ・自治体の医療審議会への参画、自治体との連携事業に関しては、自治体の予算の影響も受けるため持続的に増加させることは困難であることが予測されます。また、製薬会社との共催や後援による講演会の開催も減少傾向にあるため、目標値の設定方法も実態にあわせて考え直す必要があります。 ・自治体への参画の実績の集積は、招聘状で管理し、漏れをふせぐなど、総合データベースに依存しない方法も検討する必要があるでしょう。 ・コホートサーベイランスが具体的に稼働し出している点は評価できると思います。 ・年度計画で予定した取組みが順調になされ、成果があがっている。さらに検証結果に基づき、再度目標値を設定するなど、中期計画達成にむけて取組みが進んでいる。 ・達成目標の達成予測に関するコメントを記載願いたい。
	<p>2-②-2 さらに、ICT ネットワークを用いた地域医療支援のモデルシステムを構築し、その利用を増加させる。 <医学部></p>	<p>2-②-2-1 2-②-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウド型生体信号伝送しすてむは、実績もあがっており、評価できる。しかし、高齢者見守りシステムの実証実験の問題点とその改善策が検討されているが、利用の増加に結びつく段階ではないのが問題である。 ・マスメディアでの報道など、取組が順調に進捗していることが窺える。 ・本年度は「ICT ネットワークシステムの実証試験回数」は延べ何件になったのか記載願いたい。
	<p>2-②-3 関連病院長会議のメンバーである県内基幹病院を中心に地域医療強化のための連携を推進するとともに、地域医療の向上に貢献する。 <医学部></p>	<p>2-②-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「関連病院長会議に要請し、各病院における薬剤調達調査」は実施されたのか。 ・学内のメディカルネット利用促進のアナウンスはされているが、外勤先での利用促進が実際にすすんでいるかの検証が不十分である。利用件数の増加を示す具体的数値の提示が必要（進捗状況が不十分である）。 ・基幹病院の連携に関しては小浜病院への整形外科医師派遣 1 名のみでは実績が乏しい（進捗状況が不十分である）。
	<p>2-③ 地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携により推進する体制を平成 29 年度末までに構築し、研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信する。さらに、知財を含む様々な情報を地域でオープンに共有し、多様性を確保して対話を促進することにより、“産”の市場指向力と“学官”の基盤的研究能力、“金”のプロモート能力を融合したニーズ駆動型地域イノベーションを創出、推進する仕組みを構築し、持続的な技術移転や共同研究成果の創出に繋げ、活力ある地域社会の形成に貢献する。 <産学官連携本部></p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふくいオープンイノベーション推進機構と連動した「産学官金」の連携により、地域ニーズに対応し、新産業の創出と地域の活性化に繋がる共同研究を推進する体制が構築されつつあることは確認できた。・産学官連携本部と U R A オフィスの統合が実現され、産学官連携の窓口が明確化されるとともに、地域貢献及び強み・特色ある分野での研究推進を図る体制が構築されたことは高く評価できる。 ・金融機関との連携による「産学官金連携コーディネータ制度」が企画・検討され、平成 29 年度からの運用開始は評価できる。 ・懸念材料は、県内企業との共同研究の数と割合で、今後、この部分を改善する取組をお願いしたい。 	

【年度末】

	<p>2-③-1 地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携により推進する体制を平成 29 年度末までに構築し、研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信する。 <産学官連携本部></p>	<p>2-③-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・産学官連携本部協会との協働、ふくいオープンイノベーション推進機構への参画、福井県工業技術センタとのクロスアポイント人材の登用等、地域・企業と連携した活動体制が構築されつつあることが確認できた。 ・産学官連携本部と U R A オフィスの統合の実現 ・産学官金連携コーディネータ制度の新設と 29 年度からの運用 ・年度計画で予定されていた取組は順調に進捗している。</p>
	<p>2-③-2 知財を含む様々な情報を地域でオープンに共有し、多様性を確保して対話を促進することにより、“産”の市場指向力と“学官”の基盤的研究能力、“金”のプロモート能力を融合したニーズ駆動型地域イノベーションを創出、推進する仕組みを構築し、持続的な技術移転や共同研究成果の創出につなげ繋げ、活力ある地域社会の形成に貢献する。 <産学官連携本部></p>	<p>2-③-2-1 2-③-2-2 2-③-2-3 2-③-2-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・産学官連携本部協会員数は目標値を維持しているが、分科会活動の内容ならびに成果の記述が必要と思われる。 ・戦略 3 の評価指標である県内企業との共同研究件数ならびに技術相談件数などが目標値達成が厳しい。 ・多くの設定した数値目標を達成しており、取組は順調に進捗しているように思われる。しかしながら、評価の対象となる「地域（県内）との共同研究割合の向上状況」、「技術相談件数の増加状況」が年度途中ではあるが、必ずしも十分でなく、年度末の数値を期待したい。なお、その状況を基に、目標への達成予測に関するコメントをいただきたい。</p>
	<p>2-④ 地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対し、地域の行政や企業等と連携して、その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究を推進するとともに、地域創生の核となる人材を育成するための重要なカリキュラムとして、地域と連携した課題解決型能動的学習を拡充する。国際地域学部では平成 28 年度に地域連携協議会を設置しアドバイザーボードとして機能させるとともに、第 3 期中期目標期間を通じて全学的に自治体や企業、学校、諸団体との教育・研究の連携を推進し、連携授業および共同研究の連携先数を増加させる。 <国際地域学部></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・連携自治体、課題解決型授業の連携先の数の計画値、地域連携協議会の設置など計画に沿って進捗していることが確認できた。次年度以降は、中期計画に設定している地域の諸課題の解決に繋がる共同研究の実績、地域創生の核となるべく育成する人材の地域への定着を促進する取組を実施し、地域に貢献する大学としてのミッションを遂行していくことが期待される。</p>
	<p>2-④-1 地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対し、地域の行政や企業等と連携して、その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究を推進する。 <国際地域学部></p>	<p>2-④-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・永平寺町との連携による共同研究、敦賀市との連携による小中一貫教育のプログラム開発が進行中であること、28 年度の計画に沿った進捗状況であることを確認した。今後、中期計画に謳っている「地域コミュニティの希薄化、地域社会のグローバル化」等の解決に繋がる成果をあげていくことを期待したい。</p>
	<p>2-④-2 地域創生の核となる人材を育成するための重要なカリキュラムとして、地域と連携した課題解決型能動的学習を拡充する。 <国際地域学部></p>	<p>2-④-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・課題探求プロジェクトの連携先の数が計画以上に進捗しており、課題解決型授業の成果を公開していることは評価できる。中期計画の期間を通じて、連携先の数を維持していくために、連携先にとって負荷が低くメリットのある取組にするなどの対処も必要と思われる。 ・今季の達成目標が達成されている。</p>

平成 28 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

【年度末】

	<p>2-④-3 国際地域学部では平成 28 年度に地域連携協議会を設置しアドバイザーボードとして機能させる。 <国際地域学部></p>	<p>2-④-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・国際地域学部の地域連携協議会が発足し、自治体及び産業界が参加して開催された。 ・予定されていた「地域連携協議会」が設置されており、今後のアドバイザーボードとしての機能が果たされていることを示す資料の収集をお願いしたい。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 28 年度進捗状況に対する IR 室コメント
<p><中期目標 1> 国際通用性の高い世界に開かれた大学に改革し、世界で活躍できる高度専門職業人を育成する。</p>	<p>1-① 戦略的な海外協定校の開拓および留学生同窓会組織との連携の拡大を推進し、国際交流ネットワークを積極的に拡大して、海外協定校数を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増加させる。 <国際企画会議></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・文科省提出年度計画に記載してある「大学の国際交流戦略を実現するため組織体制を整備」について、具体的な整備状況が提示できるでしょうか。</p>
	<p>1-①-1 戦略的な海外協定校の開拓および留学生同窓会組織との連携の拡大を推進し、国際交流ネットワークを積極的に拡大して、海外協定校数を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増やす。 <国際センター> <全学グローバル人材育成推進委員会></p>	<p>1-①-1-1 (1-①-1-1-1~4) 1-①-1-2 (1-①-1-2-1~3) 1-①-1-3 1-①-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・海外協定校数が、第 2 期中期目標期間末(H28.3)大学間協定 36 校、部局間協定 52 校、計 88 校であったが、H29 年度末で 31 ヶ国・地域の計 112 校（大学間協定 54 校、部局間協定 58 校）となっている。 ・順調に成果があがっているものと思いますが、本年度の成果を基に達成目標への達成に向けたコメントを記載願いたい。 ・医学部、教育学部の進展はいかがでしょうか。</p>
	<p>1-② 学生の国際交流を一層盛んにするために、国際地域学部を中心として、外国人留学生受入れおよび日本人学生の海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備、ナンバリングなど留学生に役立つ教務体制の構築、ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充、外国語による情報発信の強化を推進し、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15%増加させる。 <国際企画会議></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・文科省提出年度計画に示された「留学生に役立つ教務体制の構築」は今回の取組成果で十分なのか。</p>
	<p>1-②-0 学生の国際交流を一層盛んにするために、国際地域学部を中心とした次の具体の取組により、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15%増やす。 <国際センター></p>	<p>1-②-0-1 (1-②-0-1-1~5) 1-②-0-2 1-②-0-3 1-②-0-4 1-②-0-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・受入外国人留学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28. 3) 175 名であったが、H29. 3 月現在で 200 名となっている。また、海外派遣日本人学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28. 3) 206 名であったが、H29 年度末は大幅増の 273 名となっている。 ・「ASEAN あるいは東アジア地域で、福井大学へ入学するための入学特別枠を実施する高校を決定」はなされたのか。 ・1-②-5-16 の進捗状況から、良好に進捗していることが窺える。なお、「国際地域学部を中心とした」としており、国際地域学部の寄与はどの程度か示してほしい。</p>
<p>1-②-1 外国人留学生受入れおよび日本人学生の海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備を行う。 <国際センター></p>	<p>1-②-1-1 (1-②-1-1-1~4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・福井大学基金の一部を派遣・受け入れ留学生の奨学金枠として設け、給付額の設定を行っている。また、平成 29 年度からの支援体制を強化するために、国際センター日本語教育担当教員 3 名が語学センターへ異動しセンターの機能強化を図ることとした。 ・ツイニングプログラムの拡大によって編入学生獲得は増加したのか。</p>	

【年度末】

	<p>1-②-2 ナンパリングなど留学生に役立つ教務体制の構築を行う。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞</p>	<p>1-②-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・米国型 13 段階成績評価制度 (GPA)、ナンパリング、CAP 制、カリキュラムツリーを整備し、国際通用性を有する教育課程を編成している。 ・整備の効果が示せるような検証をお願いします。</p>
	<p>1-②-3 ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充を行う。 ＜国際地域学部＞</p>	<p>1-②-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・米国型 13 段階成績評価制度 (GPA)、ナンパリング、CAP 制、カリキュラムツリーを整備し、国際通用性を有する教育課程を編成している。 ・具体的な取組みが進んでいるが、年度計画に予定した「海外協力校 1 校」は決定できたのか。</p>
	<p>1-②-4 外国語による情報発信の強化を推進する。 ＜広報センター＞</p>	<p>1-②-4-1 1-②-4-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・平成 29 年度末に、英文パンフレットを前回よりも内容を充実させ作成した。なお、4 月以降に、国際課から海外の学術協定校へ送付予定である。また、英語版 HP について、留学生の確保など大学間の協力・連携の推進等グローバル社会を見据えた情報の展開が急務となっており、国際課と連携してリニューアルした。さらに、中国語 HP については、立ち上げ準備を行った。</p>
	<p>1-②-5 学生の国際交流を一層盛んにするために、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15% 増やす。 ＜国際センター＞</p>	<p>1-②-5-1～16</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・受入外国人留学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28. 3) 175 名であったが、H29. 3 月現在で 200 名となっている。また、海外派遣日本人学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28. 3) 206 名であったが、H29 年度末は大幅増の 273 名となっている。 ・受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数について、本年度の実績を基に到達目標の達成予想をコメントいただきたい。</p>
	<p>1-③ 教職員の国際通用性を高めるために、年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した教員採用、語学力を重視した職員採用、現職の教職員のグローバル活動の活発化を推進し、教員のグローバル化活動数（サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など）を第 2 期中期目標期間末と比較して 20% 増加させる。 ＜国際企画会議＞</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>
	<p>1-③-1 教職員の国際通用性を高めるために、年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した教員採用、語学力を重視した職員採用を行う。 ＜人事会議＞</p>	<p>1-③-1-1 1-③-1-2 (1-③-1-2-1～5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・教員採用の際には、積極的に国際公募を行い、その結果、外国人の教員を雇用している。</p>

【年度末】

			<ul style="list-style-type: none"> ・教員人事の状況は記載されているが、語学力を考慮した職員の採用状況はいかがか。 ・教員採用において「年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した」ことが示せるよう配慮願いたい。
	<p>1-③-2 現職の教職員のグローバル活動の活発化を推進し、教員のグローバル化活動数（サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など）を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増やす。</p> <p>＜国際企画会議＞</p>	<p>1-③-2-1 (1-③-2-1-1～5)</p> <p>1-③-2-2 (1-③-2-2-1～4)</p> <p>1-③-2-3 (1-③-2-3-1～4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・11 月の各学部への検討依頼後、1 月及び 2 月開催の全学グローバル人材育成推進委員会にて、教員のグローバル化活動指標の定義を決定し、全教員へグローバル化活動数アンケートを実施した。今後、集計・分析し、第 3 期中には継続して実施していく予定である。 ・グローバル化活動数の定義が明確されており、今後、進捗状況が容易に把握できることが期待される。</p>
	<p>1-④ 単独の大学では提供困難であった学部から大学院までの一貫した原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成 31 年度までに構築し、さらに大学院では、留学生および外国人研修生にも対応した、英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立し、本学の重点分野である原子力安全工学分野において、世界で活躍する高度専門職業人を育成する。</p> <p>＜附属国際原子力工学研究所＞</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・文科省提出年度計画に刺された「国内外の学生の教育に資するための英語での講義を実施」について、第 2 期よりも向上したのかコメントいただきたい。</p>
	<p>1-④-1 単独の大学では提供困難であった学部から大学院までの一貫した原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成 31 年度までに構築する。</p> <p>＜附属国際原子力工学研究所＞</p>	<p>1-④-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・大阪大学工学研究科と英語講義共同実施及びネット配信に関する協定を締結し、双方の大学院生が英語講義を受講できるようになった。 ・原子力規制庁の原子力人材育成事業に応募し、採択された（条件付き）。IAEA など海外機関へのインターンシップについて協議を開始した。 ・大学院博士前期課程一般入試において、英語の評価を TOEIC および TOEFL のスコア提出に一本化した。 ・学部 3 年生からの学-修一貫教育に関するカリキュラムを議論し、海外インターン等に対応できる実施計画をとりまとめた。 ・原子力人材育成プログラムの構築に向けて、着実に進捗している。</p>
	<p>1-④-2 大学院では、留学生および外国人研修生にも対応した、英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立し、本学の重点分野である原子力安全工学分野において、世界で活躍する高度専門職業人を育成する。</p> <p>＜附属国際原子力工学研究所＞</p>	<p>1-④-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・教員が 8 月にベトナムを訪問し、各大学等へ福井大学の PR を実施した。また、学部学生の留学ニーズが高いことから、ベトナム教育訓練省・国際教育開発局と大学院生の受入で締結した MOU を、学部生も対象とするよう改訂を行った。 ・インドネシアからの留学生受入要請に応え、修士及び博士課程学生の受入を決定した。 ・モンゴル MUST への教員派遣と先方からの教員の来訪により、双方の原子力工学分野のカリキュラム比較と共同研究について議論を進め、来年度、修士学生</p>

【年度末】

				を受け入れる予定である。 <ul style="list-style-type: none"> ・ JDS（人材育成奨学計画）プログラムにベトナムとの修士学生受け入れ提案を行った。 ・ 年度計画で予定しているそれぞれの取組の進捗は順調と思われる。
<p><中期目標 2> 地域のグローバル化を牽引する核となる大学になる。</p>	<p>2-① 教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善、スーパーグローバルハイスクール事業への協力・グローバルサイエンスキャンパス事業の実施、留学生の地域交流活動数の増加（第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増）、さらに、グローバル化社会における学び直しの場の創出と提供を実施して、地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。 <国際企画会議></p>			<p>(検証結果)</p> <p>(コメント)</p>
		<p>2-①-1 教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善、スーパーグローバルハイスクール事業への協力・グローバルサイエンスキャンパス事業を実施する。 <国際センター> <ライフサイエンスイノベーションセンター></p>	<p>2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・ GSC インテンシブコース受講生 65 名は、本年度のプログラムをすべて終え、これまで取り組んだ医学や生物学などの成果を発表するポスター作成及び 3 月 28 日に成果発表会を行った。また、第 1 期アドバンストコース受講生 30 名は、成果発表会(国際学会トライアル)において、英語での口頭発表及びポスター発表を行った。これらにより、多様な科学者との交流の機会を提供し、受講生の科学的能力理向上とグローバル能力向上に寄与していると考える。 ・ 年度計画に記載されたもののうち「・教育委員会と連携して英語教員の専門性向上のための取組みを検討する。・本学教員、日本人学生、外国人留学生が SGH 事業に積極的に関わり、様々な形で授業を提供する。」の取組状況はいかがか。 </p>
		<p>2-①-2 留学生の地域交流活動数の増加（第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増） <国際センター></p>	<p>2-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来、福井県と福井市の 2 団体を中心に進められてきた国際地域交流活動に、更に鯖江市や越前市など複数の周辺市町の公立交流団体や民間交流団体を加えるなどして交流地域の範囲拡大に努めており、それに伴い留学生を派遣する地域交流活動の種類も増えてきている。 ・ <u>具体的な派遣実績を示し</u>、その向上状況についてコメントいただきたい。 </p>
		<p>2-①-3 グローバル化社会における学び直しの場の創出と提供を実施して、地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。 <地域貢献推進センター></p>	<p>2-①-3-1 2-①-3-2 2-①-3-3 (2-①-3-3-1~4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度計画で予定した「COC 事業等と連携して、地域の学び直しのニーズを調査し、国際通用性を高めるための社会人の学び直しの公開講座カリキュラムの設置の計画を立てる。」について、その進捗状況を記載願いたい。 </p>
	<p>2-② 海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップや、外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 <国際企画会議></p>			<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>

平成 28 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

【年度末】

		<p>2-②-1 海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 <産学官連携本部></p>	<p>2-②-1-1 2-②-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・平成 28 年度の後期実践道場科目「国際化戦略とオープンイノベーション」にて、海外を志向する地域企業経営者や、専門家を招き、地域企業の海外進出の状況や戦略の授業を実施している。 ・年度計画で予定した「東南アジアに進出している地元企業に学生を派遣する海外インターンシップの定着・拡大のための計画」は策定できたのか。</p>
		<p>2-②-2 外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 <国際センター></p>	<p>2-②-2-1 (2-②-2-1-1~4) 2-②-2-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・従来別々に行ってきた、地域から海外展開を志向する企業に学び、ディスカッションを行う「アジアビジネスキャンパス」や、地域企業の国際化に資する講演者を招き学ぶ「地域の国際化セミナー」など、地域からグローバルを志向するセミナー等を、今年度の後期実践道場科目「国際化戦略とオープンイノベーション」に統合する試行を行った。 ・文科省提出年度計画に記載された「実施してきた技術者教育プログラムをベースにした新たな教育プログラムの構築に向けた計画」は策定できたのか。</p>

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【業務運営】

中期目標	中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 28 年度進捗状況に対する IR 室コメント
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標			
1 組織運営の改善に関する目標			
<中期目標 II-①> 本学の諸機能を強化するため、ガバナンス機能の強化、人事・給与制度の弾力化、学内資源の戦略的配分等を推進する。	II-①-1 学長のリーダーシップのもと、本学の教育・研究・医療・社会貢献等の機能を強化できるようガバナンス体制の点検、見直しを継続的に行うとともに、IR 体制を強化し、財務データの分析等により、戦略的・効果的な資源配分を行う。 <経営戦略課>	II-①-1-1 II-①-1-2 II-①-1-3	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント)
	II-①-2 女性、若手、外国人・国際経験のある教員を積極的に登用し、教育研究の活性化を図る。また、構築した年俸制適用教員に係る業績評価等について検証するとともに、年俸制およびクロス・アポイントメント制度などの混合給与を促進する。なお、若手教員については、引き続き若手教員の雇用に関する計画に基づき、雇用拡大を推進し、若手教員の割合を平成 32 年度末までに医学部においては 16% 以上、工学研究科においては 14% 以上にそれぞれ向上させる。また、女性の管理職等の割合を平成 33 年 4 月 1 日までに役員 11.1% に、管理職 10.9% 以上に向上させる。 <人事労務課>	II-①-2-1 II-①-2-2 II-①-2-3	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・クロスアポイントメント制度活用の進捗状況についての記述がない。 ・他機関の勤務経験者の登用数増加に向けた具体的な取組はなされているのか。具体的に増加しているのか。 ・クロス・アポイントメント制度などの混合給与はどのように促進していくのか、具体的な方策はあるのか。
2 教育研究組織の見直しに関する目標			
<中期目標 II-②> 本学の機能強化に繋がる教育研究組織の見直しを全学的視点から戦略的に推進する。	II-②-1 全学の機能強化や各分野のミッション等を踏まえ、教育研究等組織の見直しを行う。このうち、学部においては、全学的な視点から、第 3 期中期目標期間当初に地域創生に資する国際地域学部を創設する。大学院においては、平成 32 年度末までに教育学研究科を教職大学院に一本化し、実践型教員養成機能への質的転換を推進するとともに、工学研究科博士前期課程を改組し、学部一修士一貫教育を意識した教育課程を構築する。 <経営戦略課>	II-②-1-1 II-②-1-2 II-②-1-3 II-②-1-4 II-②-1-5 II-②-1-6	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・工学研究科執行部における改組の基本方針の検討 ⇒ その結果を受けて WG を組織しているため、基本方針の“たたき台”の策定ではないか。
		3 事務等の効率化・合理化に関する目標	
<中期目標 II-③> 事務局改革と人づくりを進め、事務局機能を強化する。	II-③-1 第 2 期中期目標期間に導入した経営品質活動の取組みについて、平成 28 年度に検証、31 年度までに改善・改革を実施し、自主的・自律的な改善・改革活動に継続的に取り組む事務局づくりを推進する。 <総務課>	II-③-1-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント)
	II-③-2 事務局職員の職務能力の開発・向上に引き続き取り組むとともに、高度な専門性を有する多様な人材の確保やグローバル化に対応できる職員を育成するために、隔年毎に、職階別研修（係長、中堅職員、契約・パート）と職務における専門能力の向上のためのスキル別研修を実施する。 <人事労務課>	II-③-2-1 II-③-2-2	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・最終的に、「事務局職員の職務能力の開発・向上」が達成できたとすることを示せるようなデータ等の採取をお願いします。 ・担当の課、室毎のコンプライアンス研修は全体で幾つ実施したのか。

【年度末】

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標			
1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標			
<中期目標Ⅲ-①> 自己収入を増加させ 安定的な大学運営を 推進する。	Ⅲ-①-1 教育研究診療活動等の充実・強化のため、必要な組織・体制の見直しを行い、自己収入を増加させて安定的な大学運営を推進する。特に、多様なステークホルダーを募金対象とする「福井大学基金」については、募金活動に関する取組みの強化を図り、寄附金を着実に増加させる。 <研究推進課>	Ⅲ-①-1-1	(検証結果)
		Ⅲ-①-1-2	進捗状況が概ね良好である
		Ⅲ-①-1-3	(コメント) ・「基金と教育研究を奨励するための民間企業からの寄附金を合わせて、毎年度 3 億 5 千万円の獲得を目標」としているが、達成状況を記載願いたい。 ・Ⅲ-①-1-3 のように、具体的な成果を記載していただきたい。 ・年度計画にある「募金活動の検証」と「新たな推進計画の策定」は実施したのかどうか。
2 経費の抑制に関する目標			
<中期目標Ⅲ-②> 効率的な法人運営を 行うため、人件費改革 や管理的経費等の削 減により経費の抑制 を推進する。	Ⅲ-②-1 IR 機能を強化して、財務情報を戦略的に分析し、経費を抑制するとともに経費抑制のための業務改善に取り組む。また、エネルギー経費や施設・設備の更新経費抑制に向けた戦略を策定し、実施する。 <財務課>	Ⅲ-②-1-1	(検証結果)
		Ⅲ-②-1-2	進捗状況が概ね良好である
		Ⅲ-②-1-3	(コメント)
		Ⅲ-②-1-4	・Ⅲ-②-1-4 に記載されたように、削減の成果をまとめて記載してほしい。 ・総人件費方針について、ポイント数 1%削減の他に、28 年度人員計画を上限にシーリングをかけたことが挙げられる。
3 事務等の効率化・合理化に関する目標			
<中期目標Ⅲ-③> 教育研究等の質の向 上等のため、流動資産 および固定資産の有 効活用を推進する。	Ⅲ-③-1 資金（運営費交付金、授業料等自己収入、産学連携等研究費、受託事業費、寄附金における資金）の運用計画に基づき、資金を元本割れがないよう安全かつより利息の高い運用商品や金融機関を選択し、運用する。 <財務課>	Ⅲ-③-1-1	(検証結果)
			進捗状況が概ね良好である
	Ⅲ-③-2 全学的に施設の有効な活用を促進し、計画的な維持管理の継続的な点検・見直しを行い、教育・研究の環境改善等を行うとともに、大学が保有する固定資産（施設等）を教育研究に支障のない範囲で学外者に有償で貸付ける等の有効活用を行い、自己収入の増加に繋げる。 <施設企画課> <財務課>	Ⅲ-③-2-1	(検証結果)
			進捗状況が概ね良好である
		Ⅲ-③-2-2	(コメント)
			・スペースの再配分による有効利用の結果、どのような成果が得られたのか把握願いたい。
Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標			
1 評価の充実に関する目標			
<中期目標Ⅳ-①> 教育研究等活動の活 性化に資する適切な 評価制度の構築を推 進する。	Ⅳ-①-1 教育研究等活動の更なる活性化や大学運営の改善に資するため、平成 28 年度末までに全学的に IR 機能を整備し、業務の分析・評価体制を充実・強化する。さらに、分析結果を基にした資源配分を行う。 <経営戦略課>	Ⅳ-①-1-1	(検証結果)
		Ⅳ-①-1-2	進捗状況が概ね良好である
	Ⅳ-①-2 教育研究等の活性化に資するよう教職員の評価制度に基づく評価結果や優れた業績を人事評価上の処遇へ反映させるなど、一層の適正化を進める。 <人事労務課>	Ⅳ-①-2-1	(検証結果)
			進捗状況が概ね良好である
		Ⅳ-①-2-2	(コメント)

【年度末】

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標			
＜中期目標Ⅳ・②＞ 国立大学法人として、 教育研究等の成果や 大学運営の状況を積 極的に社会に発信す る。	Ⅳ・②-1 本学の教育研究等活動の状況や地域における役割等について、大学ポータル等を活用し積極的に 社会に情報発信するとともに、外国語によるホームページの充実等により国際的な広報活動を展開す る。 ＜広報室＞	Ⅳ・②-1-1	(検証結果)
		Ⅳ・②-1-2	進捗状況が概ね良好である (コメント) ・リリース件数等の具体的な数値を示すなど、具体的な成果を示してほしい。 ・国際課と連携した大学概要英語版パンフレットは作成されたのか。 ・28 年度具体の取組に掲げる「大学概要英語版の作成による情報発信」の実施の有無。
Ⅴ その他業務運営に関する重要目標			
1 施設設備の整備・活用等に関する目標			
＜中期目標Ⅴ・①＞ 施設設備面のマネジ メントを強化し、教育 研究等環境の改善充 実を推進する。	Ⅴ・①-1 教育研究等の環境改善を推進するため、キャンパスマスタープランについて、随時学内委員会で検討 を行い、必要に応じ修正する。既存施設の状況については、施設整備計画を基に、毎年度点検・見直 しを行うことで、省エネルギーを含めた維持管理および施設整備を推進する。また、既存施設の有効 利用を進めるため、学長のリーダーシップ等により、スペースチャージ制度によるスペースの確保と 再配分を一層推進し、教育研究活動の活性化を図る。 ＜施設企画課＞	Ⅴ・①-1-1	(検証結果)
		Ⅴ・①-1-2	進捗状況が概ね良好である (コメント) ・スペースの再配分による有効利用の結果、どのような成果が得られたのか把握願いたい。 ・スペースチャージのための全学的な面積調査を実施したことを記載してはどうか。
2 安全管理に関する目標			
＜中期目標Ⅴ・②＞ 学生および教職員の 安全管理を強化する ための取組みを推進 する。	Ⅴ・②-1 学生の修学環境について、定期的な点検を行い必要な改善を実施するとともに、教職員相互による安 全管理に関する自主的な点検・改善を推進し、教職員の安全管理に関する意識向上を図ることにより、 法定の巡回点検による改善点の指摘事項を減少させる。 ＜人事労務課＞ ＜教務課＞	Ⅴ・②-1-1	(検証結果)
		Ⅴ・②-1-2	進捗状況が概ね良好である
		Ⅴ・②-1-3	(コメント)
		Ⅴ・②-1-4	・巡回点検における指摘事項の件数はどの程度減少したのか。 ・修学環境の改善を行ったことにより得られた学生の満足度（学生生活実態調 査など）を表すことは出来ないか。 ・危機管理体制の点検を実施したか否か。
3 法令遵守等に関する目標			
＜中期目標Ⅴ・③＞ 法令遵守等を徹底す るとともに、危機管理 機能の強化を推進す る。	Ⅴ・③-1 監事の権限強化に伴い、サポート体制を充実させる。さらに、法令遵守（コンプライアンス）並びに 公的研究費の不正使用防止のための教育や研究活動の不正行為防止のための研究倫理教育を着実に 進め、教職員の受講状況や理解度を把握し、教育の受講状況を部局ごとに公表するなど、組織的に浸 透させる。また、危機管理体制の強化のため、経営上のリスクマネジメントの観点から、定期的・継 続的な点検を行う。 ＜監査室＞ ＜研究推進課＞	Ⅴ・③-1-1	(検証結果)
		Ⅴ・③-1-2	進捗状況が概ね良好である
		Ⅴ・③-1-3	(コメント) ・「講演終了後にアンケート調査を実施することで、理解度を把握する」として いるが、経年変動をフォローしてほしい。 ・研究倫理教育及び研究費不正防止のためのコンプライアンス教育の具体的な 成果を把握願いたい。
	Ⅴ・③-2 情報セキュリティの維持と強化に向け、利用者の意識向上と情報セキュリティ体制の充実強化を行 う。 ＜学術情報課＞	Ⅴ・③-2-1	(検証結果)
			進捗状況が概ね良好である (コメント) ・学長裁量経費による情報セキュリティ強化のためのインフラ整備を挙げた方 がよい。(例えば、不正プログラムを検出するためのサイバー攻撃対策やeラ ーニング教育のためのインフラ整備など)。